

新規加え41社が出展

1月10・11日 新春の文紙フェア

ステーションナリー情報委員会は、今回は「Smethin 事コレクト」

は、11月9日午前11時から株式会社デビ力東京支店3階会議室で、1月10、11日、東京文具共和会館（共和フォーラム）で開催する、文具メーカー合同見本市「第37回2024年新春文紙フェア」の記者発表会を開催



ステーションナリー情報委員会の出席役員

g New新しさの創造
見つけよう！自分だけの推し文具！ありがとう20周年」をテーマに、新規に文運堂を加えて、41社57小間の規模で開催する。
引き続きコロナ対策も実施し、入口で検温および手指先アルコール消毒の実施、3階会場の窓の常時開放、マイク朝礼・マイク終礼、1階受付でのクロークサービスおよび昼食サービスをとり止めとするが、会期中の接客人数制限は設けない。
注目のイベントでは「第

28回文紙フェア大賞コンテスト」は、来場者および出展社の投票によりそれぞれ金賞・銀賞・銅賞それぞれ1社を表彰する。「新製品部門」は2023年1月以降の発売商品もしくは今後発売が予定されている商品。「イチ押し商品部門」は過去に金賞・銀賞・銅賞を受賞した以外の商品。会場1階にエントリ商品展示コーナーを設営、会期2日目の午後3時半から表彰式を行う。
好評の「スタンブラリー」は、空くしなで、賞品を用意。カタログ・パンフレット・サンプルなど、ヤマト運輸宅急便で送るサービスも実施する。
フェアへの案内は郵便はがきタイプと電子媒体

体（メール）を用意。事前登録は文紙フェアサイト（<https://www.bunshi-fair.com/>）で12月中旬より受付開始予定。新春文紙フェアは2023年484人が来場、アフターコロナから回復傾向にある。
出展社（41社）の顔ぶれは次の通り。
あかしや、アスカ、アックスコーポレーション、アルテ、馬印、エスディアイジャパン、エンゲルスオート、オーブン工業、オルファ、カクケイ、北星鉛筆、木野瀬印刷、共栄プラスチック、クルーズ、呉竹、寿堂紙製品工業、コレクト、ササガワ、サンケイキコン、サンビー、新朝日コーポレーション、セメタイン、



デビ力、寺西化学工業、東京画鋏製作所、トーヨー長門屋商店、西敏、日本理化学工業、ニュークイン、スミッヤ
なお、「第38回2024年夏の文紙フェア」は、2024年7月9、10日に開催予定。
【ステーションナリー情報委員会役員・運営体制】
代表幹事（会計兼務） 口分田尚志（コレクト）
副代表幹事 大山隆久（日本理化学工業）、林俊孝（デビ力）
幹事 山本忠利（サンビー）、森田浩揮（アスカ）、杉谷龍一（北星鉛筆）
事務局 岩田順司（オーブン工業）、中澤誠人（ニュークイン）、豊澤健新（朝日コーポレーション）、寺西廣記（NEXT switch）
相談役 吉開征信（ニュークイン）

設立50周年を祝う

○…黒田緑化事業団…○

今後も愚直に植樹活動

公益財団法人黒田緑化事業団（黒田耕司理事長）は、11月9日午前11時から大阪市中央区のホテルニューオオタニ大阪で設立50周年記念式典を行い、同事業団役員及び評議員はじめ黒田家、吉村洋文大阪府知事、横山英幸大阪市長及び府下市町村長の代表、植樹事業者など約70人が出席、設立以来、寄附総額26億円、38

万本の植樹活動を顧みながら、今後も大阪の緑化に貢献していくことを誓った。
式典は、まず50年の歩みをスライドで紹介、同事業団はコクヨの株100万株を基に、14年間にわたる無償増資もあって、現在、360万株が資産になっており、この株の配当金で緑化事業を展開、その間、大阪市及び大阪府下の市町村に38万本、金額にして26億円にのぼる植樹を行ってきた。具体的には事業団設立時の昭和48年に最初の植樹として、天王寺商業高校に「けやき」を寄贈、セレモニとして全校生徒整列の前で贈呈式を行ったことを皮切りに、大規模植樹としてなにわ筋公園、中之島植栽工事、花と緑の万博、花の文



吉村知事より感謝状を受ける黒田理事長(右)

この後、黒田理事長が「私の父が生前より大阪には緑化園、関西空港、水みらいセンター、中之島にぎわいの森、中之島バラ園、生駒山系花屏風、中之島公園裁判所前、緑地花博30周年、うめきた、大阪・関西万博静けさの森など数々の植樹活動を紹介。また、国からはこれら功績が評価され、平成15年には緑化功労賞、令和3年には、国土交通大臣表彰を受けたことも披露した。
説明通りコクヨの株式で、この株式配当金で運営している。そしてコクヨの業績は長年順調に推移、最近は特に順調であり嬉しく思うし、本日出席の黒田会長、社長に感謝したいし、コクヨ製品を買い上げのお客様にも感謝したい。設立以来、26億円、38万本の植樹を行ってきたが、設立50周年を記念してうめきた二期と大阪・関西万博の二大事業に関係各位の協力を得て参画させてもらっている。また、緑化事業を行うには植樹する場所がなければ、

活動できないが、大阪の各市町村から場所を提供してもらい、植樹を続けることが出来たし、今後とも協力を得たい。これまでは、新しく開発された場所への植栽が主だったが、樹木には命があり、土壌改良や植え替え作業なども計画しており、今後とも愚直に植樹活動を続けていきたい」と50年の感謝を込めて挨拶した。
続いて、来賓挨拶として吉村洋文大阪府知事が「街作りをしていく上で緑は非常に力がある。大阪府内のあるところに、それぞれ一つ一つのコンセプトを持って素晴らしい植樹をしてもらっている黒田緑化事業団に心よりお礼申し上げたいし、原資となるコクヨ製品を皆様と買って、大阪府下全域で素晴らしい緑の街作りをしていきたい」と祝辞を述べた。
続いて、横山英幸大阪市長が「多くの寄附を頂き改めて感謝したい。現在、う

めきたの緑地化はじめ御堂筋の歩道空間化、なんば・高島屋前の公園など黒田から御堂筋を通って難波まで人が憩う空間作りを目指している。これを行うためには緑化が非常に重要であり、今後とも協力を得たい」と祝辞を述べた。
この後、黒田理事長に対して吉村知事、横山市長が大阪府公式キャラクターの「もずやん」と万博公式キャラクターの「ミャクミャク」を伴って感謝状を贈った。
続いて、松井一郎元大阪府知事・前大阪市長が「在職中は都市の緑化の大切さは分かっていたものの予算を確保するのが大変だったが、黒田緑化事業団の寄附により府市の緑化が進み、そのお陰で都市価値があがきく増え、現在では府市ともに財政が豊かになっている。今後とも同事業団の発展を祈願したい」と乾杯の音頭をとり、開宴した。
宴中、黒田理事長より植

スミッヤ
なお、「第38回2024年夏の文紙フェア」は、2024年7月9、10日に開催予定。
【ステーションナリー情報委員会役員・運営体制】
代表幹事（会計兼務） 口分田尚志（コレクト）
副代表幹事 大山隆久（日本理化学工業）、林俊孝（デビ力）
幹事 山本忠利（サンビー）、森田浩揮（アスカ）、杉谷龍一（北星鉛筆）
事務局 岩田順司（オーブン工業）、中澤誠人（ニュークイン）、豊澤健新（朝日コーポレーション）、寺西廣記（NEXT switch）
相談役 吉開征信（ニュークイン）

KOKUYO

貼るって、こんなに変わる。

GLOO

